

# 第5回愛媛県小学生なわとび選手権大会 競技規定

## ☆ 参加規定

- 1 申し込みは、締切日までに、大会事務局に申し込む。当日の申し込み、ならびに出場する種目の変更は、一切認めない。
- 2 出場種目は、個人部門1人3種目、団体部門1人3種目、ファミリー部門1人2種目、一般部門1人2種目までとする。
- 3 個人部門・団体部門・ファミリー部門（ダブルダッチを除く）の記録集計は、低学年・中学年・高学年の部に分けて行う。
- 4 低学年と中学年が合同で出場する場合は中学年の部、中学年と高学年が合同で出場する場合は高学年の部に出場することとする。未就学児については、低学年の部で出場することができる。
- 5 健康状態については、保護者が、責任をもつこと。傷害保険料を越える範囲の事故については、協会は責任を負わない。
- 6 棄権する場合は、大会前日までに大会事務局に届け出る。（やむを得ない場合は当日も可）
- 7 規定にない事態が発生したときは、競技部（会長・審判長・事務局等）で協議し決定する。
- 8 参加者は県内外問わない。

## ☆ 競技規定

- ※ 本大会のルールは第5回愛媛県小学生なわとび選手権大会ローカルルールである。正式な競技のルールとは違う部分もある。
- ※ 競技中にロープが切れたり、破損したりした場合、出場順を改めて一度だけやり直すことができる。

### 【個人部門】

#### ☆あやとび・交差とび（一回旋技）、二重とび・あや二重とび・交差二重とび（二回旋技） 三重とび（三回旋技）

- 1 記録は跳んだ回数（着地した回数）で表わす。ただし、あやとび・あや二重とびについては手がクロスした回数を数える。
- 2 「はじめ」の合図があり、一回旋技・二回旋技・三回旋技を跳びはじめ、ロープが足に引っかかった時や、跳ぶのをやめたとき、また三回旋技は二回旋技や一回旋技、二回旋技は一回旋技になってしまったときが終了となる。
- 3 記録は、やめたときに両足ともロープを越えていれば、その記録は入れるが、そうでない場合は、最後の記録は入らない。
- 4 試技は1回とし、10回以上跳べた時は、それを記録とする。記録が10回に満たない場合は、直後にもう一度試技できる。ただし、それでも10回に満たないときは、よい方が記録となる。
- 5 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。
- 6 前回しでも後回しでも、どちらでもよい。

## 【団体部門】

※ 各種目、合計跳躍数が同数の場合で決勝進出者を決めなければならない場合は、決勝進出決定戦を行う。

### ☆8の字ジャンプ（1分間・3分間）

- 1 予選を行い、低・中・高学年の部において上位4チームが決勝へ進出することができる。ただし、参加チームが4チーム以下の場合には予選を行わない。
- 2 1人1回ずつ跳び、跳んで抜けた後、次の人が跳ぶ。2人が同時に跳ぶことはできない。
- 3 「はじめ」のブザー合図がある前に、ロープを回していてもよい。
- 4 記録は、「やめ」のブザー合図があったときまでとする。ただし跳んでいる状態のときは、最後の一人を記録として数えることができる。
- 5 最後にロープが引っかかったときは、その人数は数えない。
- 6 時間内に、跳んだ合計回数を競う。何回ロープが引っかかって競技は続けられる。
- 7 選手は、3名以上とする。（ロープの回し手2人を除く）
- 8 ロープの回し手（ターナー）は小学生が1人以上でなければならない。
- 9 ロープの長さは、自由とする。
- 10 記録は審判が記入する。

### ☆シングルロープスピードリレー

- 1 予選を行い、低・中・高学年の部において上位4チームが決勝へ進出することができる。
- 2 4人1組で1人30秒ずつ合計2分間のリレーをする。「はじめ」のブザー合図で4名の選手が順番に30秒ずつ行う。最初の選手が最初の30秒間を跳躍。30秒後に「ブザー音」が鳴ったら最初の選手は跳躍を止め、2番目の選手が跳躍を始める。同様に3番目、4番目とチェンジしていく。  
※4名の選手はすべて異なる選手でなければならない。
- 3 ロープを跳んだ足が床に着地した瞬間を1回と数え、4人の合計跳躍回数を計測する。
- 4 跳び方は「前かけ足跳び」もしくは「前両足跳び」とする。
- 5 記録は、「やめ」のブザー合図があったときまでとする。ただし跳んでいる状態のときは、最後の1回を記録として数えることができる。
- 6 最後にロープが引っかかったときは、その回数は数えない。
- 7 ロープの長さは、自由とする。
- 8 記録は審判が記入する。

### ☆ダブルダッチ（シングルの部・ダブルスの部）

- 1 予選を行い、低・中・高学年の部において上位4チームが決勝へ進出することができる。
- 2 ジャンパーが中に入った時点から引っかかるまでの回数を記録とする。
- 3 「はじめ」のブザー合図がある前に、ロープを回していてもよい。
- 4 記録は、「やめ」のブザー合図があったときまでとする。ただし跳んでいる状態のときは、最後の1回を記録として数えることができる。

- 最後にロープが引っかかったときは、その回数は数えない。
- 1分間の間に、跳んだ合計回数を競う。何回ロープが引っかかっても競技は続けられる。
- 選手はシングルスの方は3名（ターナー2人、ジャンパー1人）、ダブルスの方は4名（ターナー2人、ジャンパー2人）とする。
- ロープの回し手（ターナー）は小学生が1人以上でなければならない。
- ロープの長さは、自由とする。
- 記録は審判が記入する。

### ☆チームジャンプ連続

- 一発決勝とする。低・中・高学年の部において上位3チームを表彰する。
- 競技時間は2分間とし、時間内であれば何度でも挑戦できる。終了の合図が鳴った時点で跳んでいる場合は、続けて跳ぶことができる。
- 「ジャンパーの人数」×「連続で跳んだ最大の回数」を基本ポイントとする。  
(ポイント計算例)
  - ・ジャンパーが3人で200回跳んだ場合・・・3人×200回=600ポイント
  - ・ジャンパーが15人で60回跳んだ場合・・・15人×60回=900ポイント
  - ・ジャンパーが30人で20回跳んだ場合・・・30人×20回=600ポイント
- 「はじめ」の合図があり、跳びはじめ、ロープが足に引っかかった時や跳ぶのをやめたときが終了となる。
- 選手は3人以上とする。（ターナー2人を含む）とし、上限はない。
- ロープの回し手（ターナー）は小学生が1人以上でなければならない。

## 【ファミリー部門】

### ☆親子とび

- 保護者が短縄を回し、2人同時に跳ぶ。
- 1分間に跳んだ合計跳躍回数を競う。途中で引っかかっても、続けて跳ぶことができる。
- 1回旋1跳躍でも1回旋2跳躍でもよい。
- 親子とびに出場する子どもが複数の場合は、一緒に跳ぶ保護者は同じでもよい。

### ☆ダブルダッチ（シングルス・ダブルス）

- 基本的なルールは【団体部門】ダブルダッチ（シングルス・ダブルス）に準ずる。
- ロープの回し手（ターナー）は保護者、その兄弟もしくは親族の方等とし、ジャンパーは子どもとする。 ※保護者の方、1名以上は参加することとする。
- ダブルダッチに出場する子どもが複数の場合は、一緒に参加する保護者とその兄弟もしくは親族の方は同じでもよい。

## 【一般部門】

### ☆二重とび

- 1 中学生以上に参加資格がある。
- 2 基本的なルールは個人部門に準ずる。

### ☆ダブルダッチ（シングルス・ダブルス）

- 1 中学生以上に参加資格がある。
- 2 基本的なルールは【団体部門】ダブルダッチ（シングルス・ダブルス）に準ずる。